HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学一般日本語初級コースの学習者アンケート調査報告 ： コースデザインの見直しに向けて
Author(s)	杜, 長俊; 近藤, 弘
Citation	日本語・国際教育研究紀要, 28, 56-79
Issue Date	2025-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94296
Type	departmental bulletin paper
File Information	28_p56.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学一般日本語初級コースの学習者アンケート調査報告

－コースデザインの見直しに向けて－

杜　長俊・近藤　弘

要　旨

北海道大学一般日本語コースでは、北海道大学に所属する留学生（短期交換留学生、学部生、大学院生等）や教職員に日本語学習プログラムを提供しており、初級４レベル、中級３レベル、上級１レベルの８レベルで授業運営を行っている。また、北海道大学では、日本人学生と留学生が共に学ぶ「多文化交流科目」が開講されている。中級と上級においては、「理解」「表現」「やりとり」のモードで、他者とのコミュニケーション及び協働を実践する能力の育成を目標とした授業が実施されており、中級・上級の学習者が受講できる多文化交流科目も数多く開講されている。それに対し初級では、文法や語彙の積み上げを志向する授業が多く、初級の学習者を対象にした多文化交流科目は2024年度まで開講されていなかった。こうした状況を踏まえ、筆者らは初級コースの受講者にアンケート調査を実施し、初級コースの課題、学習者が求める授業像について明らかにするとともに、初級コースのコースデザインを見直す方向性について考察した。

〔キーワード〕北海道大学日本語スタンダーズ、一般日本語コース、
初級、学習者アンケート、コースデザインの見直し

1.　はじめに

本調査報告は、北海道大学一般日本語初級コースを2024年度前期に受講した日本語学習者を対象に行なったアンケート調査の結果をまとめたものである。北海道大学一般日本語コースの中級・上級の授業では、「北海道大学日本語スタンダーズ」が導入され、課題達成能力や他者とコミュニケー

ションをとる能力を育成することを目標としたカリキュラムにより、授業が実施されている。一方で、初級コースは、文型や語彙を積み上げることを目標とした授業が多く、北海道大学日本語スタンダーズの理念に基づいたコース設計になっていないと考えられる。

本調査の目的は、初級日本語コースのコースデザイン見直しに向けて、学習者の初級コースに対する問題意識やニーズ等について明らかにすることである。アンケートは回答者の属性、日本語学習の動機、初級日本語コースの課題、初級日本語コースへのニーズ等について知るため９つの質問を設定した。2024年度前期に初級日本語コースを履修した221名の学習者にアンケートを配布し、59の回答が集まった。本調査報告では、回答について、北海道大学一般日本語初級コースを受講する学習者のプロフィール、学習者像、初級コースの課題、そして、求める授業像の観点から考察した結果を示す。

2.　北海道大学一般日本語コースが提供する日本語教育の現状について

北海道大学一般日本語コースは「留学生と日本人学生がともに学び、様々な社会的問題の解決に向けた新たな手段、文化を継続的かつ具体的に生み出していけるような、新しい社会構築のための即戦力となる人材養成」（北海道大学日本語スタンダーズ2019）を目指しており、この教育目標に即した科目として2013年度より留学生と日本人学生が共に日本語で学ぶ問題解決型・プロジェクト型授業「多文化交流科目」が設置された。そして、同科目の設置に伴い日本語教育においても多文化交流活動で必要とされる課題達成能力や他者と協働する能力の育成を重視した北海道大学日本語スタンダーズ（以下、北大スタンダーズ）が構築された。

北海道大学国際教育研究部が提供する一般日本語コースでは、2016年度以降、この北大スタンダーズに基づいた日本語教育が行われている。北大スタンダーズとは「CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）、JFスタンダーズ（国際交流基金）、JLC日本語スタンダーズ（東京外国語大学）などの先行事例を踏まえつつ、国際文化フォーラムの「外国語学習のめやす」」（小河原2016）を参考に構築された北海道大学一般日本語コースが提供する日本語教育の枠組みである。「課題遂行能力の育成に貢献する「ことば」「コミュニケーション」」能力や「他者と協働して新たな

社会を創るために社会的な関係性を構築するという意味での「つながる」力をあわせ持つ」(小河原2016)学習者の育成を目標としている。

現在、一般日本語コースでは、北大スタンダーズに基づいたカリキュラムが中級から上級レベルにかけて「やりとり」「表現」「理解」の三つのモードで提供されている。各モードの主なトピック及び活動内容は表1の通りである。

【表 1】中級～上級レベルの各モードにおけるトピック・活動[1]

①やりとりモード	②理解モード	③表現モード
話す・聞く(日常会話、討論、電話など)	聞く(テレビ、ラジオ、放送、案内、講義など)	話す(プレゼンテーション、スピーチなど)
書く・読む(メール交換など)	読む(広告、新聞、小説、論文など)	書く(レポート、ポスターなど)

中級と上級レベルではスタンダーズが構築・実践されている。その一方で、初級レベルにおいてはスタンダーズが構築されていないため、表1のようなモード別による授業ではなく、北大スタンダーズ構築以前のカリキュラムをベースとした授業が行われている。主な科目は「初級文法」と「初級口頭表現」である。『みんなの日本語』を用いた「初級文法」で学んだ文型や語彙を、「初級口頭表現」で応用できるようになる・コミュニケーションを取れるようになることが目指されている。また、その他にもサバイバルジャパニーズを志向する「実用日本語」と、漢字を習得する「漢字・語彙」が開講されている。

筆者らは、初級日本語コースについて、学習者の課題達成能力及び他者と協働し関係性を構築できる能力を育むことを目標としたスタンダーズ構築の必要性を感じている。初級スタンダーズの構築と実践は本日本語コースが学習者に対し、より包括的な日本語教育を提供することにも繋がるだろう。

3. 調査方法とアンケートの内容

本調査では、北海道大学初級日本語コースの授業を履修した学生が、どのような目的で日本語を学んでいるのか、日本語学習を通してどのようなことを目指しているのかを明らかにすること、また、初級コースのコース

デザインの見直しに向けて受講生の意見や感想を収集することを目的に、オンライン上でアンケートを実施した。

アンケートは、Google formを活用し作成した。アンケート調査の説明文及び質問は、日本語と英語を併記し作成した。作成したアンケートは、日本語の授業を履修するシステム（通称日本語教務システム）を通じ、対象者に電子メールで一斉送信した。対象者は、北海道大学2024年度前期（春学期と夏学期）の初級コース（初級文法、初級口頭表現、漢字語彙、実用日本語）を履修登録した221名であった。2週間程（2024年8月15日～8月31日）の回答期間を設け、配布数221のうち、回答数は59（回答率約27％）であった。

アンケート調査の依頼文及びGoogle formの説明欄に、アンケートの作成者、概要、対象者、目的、問い合わせ先について以下の説明を記載した。

1．このアンケートは、北海道大学初級日本語コースのコーディネーター（○○と△△）が作成しました。This questionnaire was prepared by the coordinators（○○ and △△）of the Elementary Japanese Language Course at Hokkaido University.
2．問題は9問あります。所要時間は10分以内です。There are 9 questions. The time required is less than 10 minutes.
3．アンケートの対象は2024年の春・夏学期北海道大学の初級クラスを受講した人です。The target population for the survey is those who have taken the spring and summer semesters of 2024 elementary classes at Hokkaido University.
4．初級クラスをよりよくするために、皆さんの意見を知りたいです。よろしくおねがいします。We would like to know your opinion on how to improve the elementary classes. Thank you in advance.
5．このアンケートについて質問がある場合は、○○○@oia.hokudai.ac.jpにメールください。If you have any questions about this survey, please contact ○○○@oia.hokudai.ac.jp.

アンケートの質問は、筆者らの質問の意図や狙いによって、1）回答者のプロフィール、2）日本語学習者像、3）回答者が見た初級コースの課題、4）回答者が求める授業の4つに分ける。アンケートは無記名であるが、最後

の質問では、アンケートで記入した内容について詳しく話を聞くヒアリングに協力できるかどうかを尋ね、協力の意向がある場合のみ、メールアドレスを記載してもらう形を取った。以下は、アンケートの構成について説明する。

1）回答者のプロフィール

回答者の一般的な情報を得ることを目的とし、「履修した授業」「北海道大学での所属」「身分」についての質問を設けた。これらの質問は、質問に対してあてはまる項目を1つ選択し回答する形式を取った。

2）日本語学習者像

日本語を学習する理由と、北海道大学の初級日本語コースを受講する理由について尋ねた。質問に対して当てはまる項目を最大3つまで選んで回答する形式を取った。これらの質問は、日本語学習を始める動機と、本学で日本語学習を継続する理由について明らかにすることを目的とした。

まず、日本語を勉強する理由に関しては、「日本の生活」「日本人との付き合い」「大学・大学院の専門的な勉強」「仕事」「社会や文化への関心」「クラスメートとの交流」「その他」を含む全7項目の選択肢を作成した。選択肢の作成は、文化庁の日本語教育に関する調査の共通利用項目や、国際交流基金が2021年度に実施した「海外日本語教育機関調査」を参考にした。そして、北海道大学の初級日本語コースを受講する理由については、「単位取得」「日本語の知識の獲得」「日本語使用の機会」「クラスメートとの交流」等の選択肢を作成した。

3）回答者が見た初級コースの課題

初級コースを受講した回答者が改善に必要だと感じていることについて明らかにするため、2つの質問を設定した。1 問目は、「授業の内容」「教員のやり方」「授業活動」「履修条件」「授業の時間設定」「その他」等の選択肢を設け、回答者に、改善する必要があると感じる項目を選んでもらった。なお、「その他」を選ぶ場合は、回答内容を自由に記入できるようにした。2問目は1問目の続きとして、改善する必要があると感じたことについての意見を自由記述形式で回答するものとして設定した。

1問目の質問に対して「口頭表現をとるために文法を一緒に取らなけ

ればならない条件」「時間割がほかの科目と重なる」という履修に関わる選択肢があるが、これらは履修登録時に多く寄せられた「専門科目の関係で文法と口頭表現を同時に履修することが難しくて、口頭表現だけは履修できないか」という学習者の問い合わせが背景となっているものである。また、「ペア・グループの活動が少ない」「テスト・クイズが多い」という選択肢は、毎学期の授業終了時に実施した授業アンケートにおける学習者の記入内容を参考に作成した。

4）回答者が求める授業

回答者が求める授業に関して、自由記述式の質問を1問設定した。初級日本語コースの授業のバリエーションを増やすという前提で、どのような授業を開講してほしいかについて回答者の意見を収集した。

実際のアンケートに記載した質問と回答形式（和文のみ）は、以下の表3で示す。

【表 3】 アンケートの質問と回答形式

質問番号	構成	質問	回答形式
1	1）回答者のプロフィール	今学期（2024年の春・夏）、日本語コースのどのクラスをとりましたか？	選択肢（複数回答可） ・文法（1,2,3,4,初中級） ・口頭表現（1,2,3,4初中級） ・実用日本語（1,2,3,運用） ・漢字・語彙（1A, 1B, 1C, 2A, 2B） ・その他[2]
2		あなたは北海道大学のどこに所属しますか？	選択肢 ・高等教育推進機構等（計24項目）
3		あなたの身分は何ですか	選択肢 ・大学生（博士）等（計13項目）
4	2）日本語学習者像	あなたは何のために日本語を学んでいますか？	選択肢（複数回答可、最大3つ） ・日本で生活していくために必要だから ・大学・大学院の専門の勉強で必要だから ・日本人との付き合いを広げるため ・将来日本に住みたいと思うから ・将来よりよい条件の仕事を探すため ・政治・経済・社会への関心 ・アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味 ・その他

5	2）日本語学習者像	北大日本語コースのクラスを受講する目的は何ですか？	選択肢（複数回答可、最大3つ） ・日本語のクラスの単位が必要だから ・日本語の知識（文法や語彙）を得たいから ・日本語を使う機会を増やしたいから ・1人で勉強することが苦手だから ・教室の中でほかの留学生と交流したいから ・その他
6	3）回答者が見た初級コースの課題	日本語のクラスの中で、改善する必要がある項目を選んでください。	選択肢（複数回答可） ・授業の内容 ・先生の教え方 ・教科書 ・ペア・グループの活動が少ない ・テスト・クイズが多い ・口頭表現をとるために文法を一緒に取らなければならない条件 ・1週間当たりの授業回数が多い ・時間割がほかの科目と重なる ・その他
7		質問6の続きです。改善する必要があると思う項目について、あなたの意見を書いてください。	自由記述
8	4）回答者が見た初級コースの課題	日本語コースの初級クラスは、授業のバリエーションを増やす予定です。 どんな授業があったらいいと思いますか？	自由記述
9	ヒアリングの協力	あなたの意見をくわしく知りたいときに、協力していただけますか？協力できるなら、メールアドレスを書いてください。	自由記述

4. 調査結果

4章では、本調査の結果について、アンケートの構成に沿って「回答者のプロフィール」「日本語学習者像」「回答者が見た初級コースの課題」「回答者が求める授業」について説明していく。

4.1 回答者のプロフィール

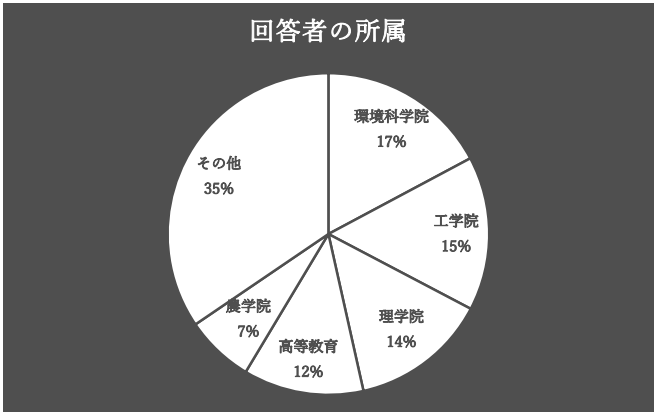
まずは、回答者の「履修科目」についてである。表4が示す通り、「文法」を

履修した履修者が最も多かった。また、内訳を調べると、1つの科目を履修した回答者は27名、2つの科目を履修した回答者は18名、3つの科目を履修した回答者は13名であった。「文法」のみを履修した者（27名）と、口頭表現や漢字・語彙とともに「文法」を履修した者（31名）は同程度であるが、後者のほうがやや多いことがわかった。

【表 4】 履修科目

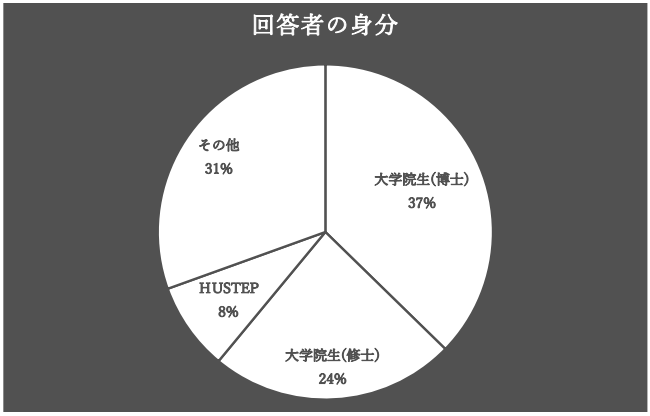
科目名	人数
文法	46
口頭表現	26
漢字・語彙	22
実用日本語	9
その他	3
無回答	1

次は、回答者の所属についてである。所属の割合を示す図1を見ると、回答者数が多い所属は、①環境科学院／地球環境科学研究院（10名、17%）、②工学院／工学研究院／工学部（9名、15%）、③理学院／理学研究院／理学部（8名、14%）、④高等教育推進機構（7名、12%）、⑤農学院／農学研究院／農学部（4名、7%）であることがわかる。④の短期留学生を除くと、理系の大学院に所属している回答者が53%と、多くを占めている。



【図 1】回答者の所属

次は、回答者の身分についてである。図２が示すように、回答者の身分は、①大学院生（博士）（22名、37%）、②大学院生（修士）（14名、24%）、③HUSTEP（Hokkaido University Short-Term Exchange Program）[3]（5名、8%）に集中している。アンケートの回答者は、2年以上の滞在期間を有する大学院生が6割程度占めている。このことから、本学の初級日本語コースの改善に興味・関心を持っているのは、長期滞在の大学院生であると言えよう。



【図 2】回答者の身分

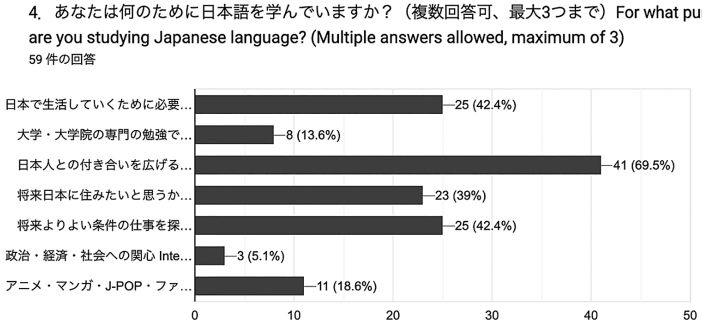
4.2　日本語学習者像

質問4では日本語学習動機と一般日本語コース受講の目的について聞いた。本節では、これらの回答から北海道大学一般日本語コースを受講する初級日本語学習者像について考察する。

まず、日本語学習動機についての回答（表5）の結果について考察する。初級日本語コースを受講する学習者は学習動機として「日本人との付き合いを広げるため（69.5%）」を選択した割合が最も高かった。一方で回答率が低かったのが「政治・経済・社会への関心（5.1%）」や「大学・大学院の専門の勉強で必要だから（13.6%）」といった専門性に関わる選択肢である。また、「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味（18.6%）」といった文化に関わる選択肢についても比較的回答率が低かった。「日本で生活していくために必要だから（42.4%）」と「将来日本に住みたいと思うから（42.4%）」と

いう日本での生活に関わる選択肢についてはどちらも約40％程度で、中間程度の回答率であった。

【表 5】日本語学習動機についてのアンケート結果



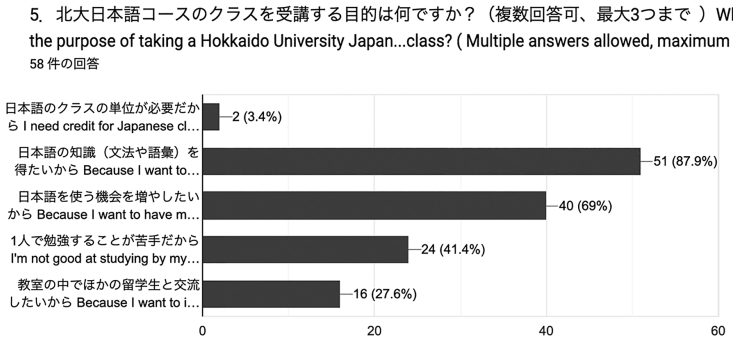
以上の学習動機についての回答傾向からは、北海道大学一般日本語コースを受講する初級日本語学習者の多くが日本での生活と人間関係構築のために日本語を学んでいると言えるだろう。

国際交流基金（2021）の報告によると、海外の日本語学習者は、学習動機として、「日本語そのものへの関心」（60.1%）に次いで、「アニメ・マン ガ・J-POP・ファッション等への興味」（59.9%）を選択する者が多かった。国際交流基金（2021）の報告と本調査結果の対比から、北海道大学一般日本語コースの初級学習者は、海外の日本語学習者と比較して、日本語・日本文化への関心から日本語を学ぶ割合が低いことがわかる。その背景として、4.1節のプロフィールにあるように回答者の54%が理系の大学院生であることが挙げられるだろう[4]。彼ら・彼女らにとってそもそも日本語・文化を学ぶことは留学における第一の目的ではない。彼ら・彼女らは自らの専門性を高めるために渡日しているのである。また、学術的な活動についても、Integrated Science Program（外国人留学生を対象とした英語による理系学士・修士課程プログラム）の留学生や理系大学院留学生は英語での授業履修と研究活動による学位取得が可能である。これらの背景から、北海道一般日本語コースの初級学習者は自らの専門性を高めるために日本語を学ぶという意識が低いのではないかと考えられる。

表6は、質問5「北大日本語コースのクラスを受講する目的は何ですか？」

の回答の結果をまとめたものである。表6から、北海道大学一般日本語コースを受講する初級日本語学習者像について考察する。

【表 6】一般日本語コース受講目的についてのアンケート結果



一般日本語コースの受講目的として「日本語のクラスの単位が必要だから（3.4%）」の選択率は極端に低く、最も回答率が高かったのは「日本語の知識（文法や語彙）を得たいから（87.9%）」であり、次に高かったのが「日本語を使う機会を増やしたいから（69%）」であった。これらの回答傾向からは初級日本語学習者が、日本語の仕組みを理解し、実際に使用できる能力を高めるために日本語の授業を履修していることがわかる。それ以外にも、「1人で勉強することが苦手だから（41.4%）」、「教室の中でほかの留学生と交流したいから（27.6%）」も少なからず選択されており、教室活動における他者との関わりを通して日本語を学ぼうとする姿勢の学習者が一定数存在していることも確認できる。

以上、表5と表6で示したアンケート結果からは、一般日本語コースの初級日本語履修者の多くが日本での生活と日本人との関係構築のため、授業を通して日本語を理解し、実際に使用できる能力を高めたいと考えていることがわかる。

4.3　学習者視点で捉える初級コースの課題

学習者の視点から初級コースの課題を捉えるため、質問6,7を設定した。質問6は、「日本語のクラスの中で、改善する必要がある項目を選んでください」という指示に、あてはまる選択肢を選んで回答するものである。「そ

の他」という選択肢をチェックした場合、内容を記入できる。質問7は質問6と関連し、改善してほしいと思うことを自由に記入するものである。以下の表7は、質問6の回答内容を回答数の多い順にまとめたものである。

【表 7】初級コースの課題（選択肢問題）

	選択肢	回答数
1	時間割がほかの科目と重なる	23
2	口頭表現をとるために文法を一緒に取らなければならない条件	20
3	1週間当たりの授業回数が多い	13
4	テスト・クイズが多い	13
5	授業の内容	10
6	先生の教え方	8
7	その他	8
8	ペア・グループの活動が少ない	7
9	教科書	7

最も回答数が多いのは「時間割がほかの科目と重なる」であり、履修したい一般日本語コースの科目と所属学部及び研究院の科目の時間が重なっていることであった。また、続いて回答数が多かったのは、「口頭表現をとるために文法を一緒に取らなければならない条件」「1週間当たりの授業回数が多い」というように、コマ数設定や、履修条件など、コース設計の問題を指摘するものである。また、「テスト・クイズが多い」「先生の教え方」「ペア・グループの活動が少ない」というように、教員による授業の実施方法に関して改善してほしいという回答も多く見られた。

また、「その他」を選択した回答は8件であった。記入内容を見ると、「特に問題がない」という記述が4件で、「授業の進度」「漢字3の授業を作ってほしい」「練習が少ない」「文法を漢字と一緒に勉強したい」など問題や要望を示す内容が4件であった。

次は、学習者が感じる初級コースの課題についての自由記述の結果を見ていく。記入せず空欄にした回答者は21名であった。表8は、記入内容があった回答について筆者らの判断でカテゴリー化し、まとめたものである。1名による回答の中で複数の問題を提起する場合もあるが、1つの問題につき1件とカウントした。記述内容は、原文が英語であったが日本語に翻訳

した。内容が重複したものに関しては代表的なものを掲載した。

【表 8】学習者から見た初級コースの課題（自由記述）

カテゴリー	記述内容	件数
授業の時間設定	● 月曜8:45, 水曜14:45, 金曜8:45のように、授業を柔軟に選ぶことができるといい。 ● 他の科目と重ならないように、1日の授業数がもっと多いと便利だと思います。	14
授業のやり方	● 文法の授業の最後では、今日の新しい語彙をまとめて説明してほしい。 ● コミュニケーションクラスでは、特に文法と語彙について、文法レッスンの復習をしたほうがよい。 ● 毎回の小テストはプレッシャーが大きすぎると思う。グループ活動や野外活動は、言語能力の向上に役立つと思う。	12
問題なし	● 私にとっては何も問題ない。	5
授業進度	● 1回の授業でみんなの日本語の1課を終わらせるのは重い。 ● 授業のペースが速い。	4
リソースの提供	● 単語をよりよく学ぶために、より多くの記憶法を提供する。 ● フラッシュカードを使って語彙を練習する。 ● ひらがなとカタカナの学習ツール[5]	4
授業の内容・テーマ	● カジュアルな日本語 ● コミュニケーションはもっと日本人との会話に重点を置くべき。 ● リスニングの活動や、本を読む活動を増やしてほしい。 ● 漢字3のクラスがほしい。	4
コースデザイン	● 文法、漢字、コミュニケーションを別々のクラスやコースにするのではなく、同じクラスに一緒にした方が便利だと思う。 ● 文法、読解、リスニング、スピーキングを一つのクラスにまとめるべき。	2
受講資格	● 配偶者や子供も同じコースを無料で受講できるようにしてくれると本当に助かります。	1

最も回答件数が多かったのは「授業の時間設定」に関する内容であった。柔軟に授業を履修できるように、授業の時間帯のバリエーションを増やしてほしいという意見が確認できた。現状としては、実用日本語（5限16：30 ～ 18:00）（計4クラス）を除いて、「文法」（計8クラス）「口頭表現」（計5クラス）「漢字・語彙」（計5クラス）は、1限（8:45 ～ 10：15）、2限（10:30 ～ 12:00）、3限（13:00 ～ 14:30）に集中しており、夕方の遅い時間帯で履修できる授業が比較的少ない。

次に回答件数が多かった「授業のやり方」というカテゴリーでは、個別の授業に対して、まとめや復習を取り入れてほしいという意見と、小テストを毎回の授業で行うことに負担を感じているという意見が確認できた。これらの意見は、後述の「授業進度が速い」という意見に関連するものであり、小テスト以外の形式で授業内容を復習できる機会を授業の中に作ってほしいという要望を映し出しているのではないかと考えられる。また、グループ活動や、教室外に出かけるような活動がほしいという意見も確認できた。「問題がない」「改善してほしいところがない」等、現在のコースに関して満足している意見は5件確認できた。その内訳は、前の質問5（選択肢問題）で「その他」を選択し、問題がないと記入した4名と、「科目時間割がほかの科目と重なる」を選択した1名であった。

回答件数が4件確認できたのは、「授業進度」「リソースの提供」「授業の内容・テーマ」である。「授業進度」というカテゴリーでは、「進度が速い」という意見が見られた。「問題がない」という回答があることから、授業進度に関する意見は、学習者による主観的なものであると言えよう。一方で、進度が速いと感じる学習者がそのように感じる理由を検討したうえで、より多くの学習者が学びやすいコースを構築できるように、授業進度及び授業の方法について考える必要もある。「リソースの提供」では、語彙や文字を覚えることが楽しくなるリソースが求められている。「授業の内容・テーマ」に関して、カジュアルな日本語、日本人との会話等、実際の運用に焦点を当てる需要を示す意見と、リスニング、本を読む活動等、耳や目で日本語能力を学ぶ活動への需要を示す意見があった。そして、漢字クラスに関して、現在「初級1」と「初級2」の2レベルしかないが、漢字3のクラスがほしいという意見もあった。漢字クラスの開設要望は、4.4節「求めている授業」でも言及されていた。この意見から、漢字を継続的に学ぶための支援に需要があると言える。

「コースデザイン」のカテゴリーでは、日本語を総合的に学ぶ科目がほしいという意見が2件確認できた。初級コースは「文法」「口頭表現」「漢字・語彙」というように、技能別に授業を開講しているが、それらを全て履修する場合、週7コマの授業を履修しなければならない。大学院生の場合は、研究活動や専門科目との兼ね合いもあり、全ての科目を履修することが難しい。このように、総合的に授業を履修しようとした際に学習者の負担が

大きくなってしまう状況を背景に、総合的に学ぶ科目がほしいという意見が出ているのではないかと考えられる。また、授業のやり方に関する「コミュニケーションクラスでは、特に文法と語彙について、文法レッスンの復習をしたほうがよい」というコメントが示したように、「初級文法（文法レッスン）」「初級口頭表現（コミュニケーションのクラス）」の2科目を履修している学習者の場合でも、それぞれのクラスで総合的に学ぶ時間や活動に需要があることがわかる。

「受講資格」のカテゴリーでは、配偶者や家族も受講資格を付与してほしいという意見が1件確認できた。現在、本学に所属する留学生や教職員には、北海道大学一般日本語コースの履修資格があるが、留学生・教職員の配偶者や家族は履修資格を持っておらず、授業の聴講も許されていない。

以上、様々な観点から本コースの課題に関する意見を収集した。回答件数の多寡にかかわらず、今回集まった学習者の意見は本コースを改善するために考慮・参考にすべき観点になるだろう。また、「問題がない」という意見も尊重し、現在のコースについて肯定的に再評価していく必要もあるだろう。

4.4　求められている授業

本節では、「日本語コースの初級クラスは、授業のバリエーションを増やす予定です。どんな授業があったらいいと思いますか？」という質問8に対する回答のテキストマイニングを行った。質問8の回答に対してこのような手法を用いた理由は以下の通りである。本調査において選択肢を設けなかった記述式の質問は、一般日本語コースの課題について聞く質問7と質問8であった。質問7は質問6と関連づけた質問だったこともあり、回答は18に留まった。一方で質問8には41の回答が集まった。量的かつ質的なデータとなった質問8の回答については、全体の傾向を捉える必要があると考え、出現頻度の観点でデータのテキストマイニングを行ない、単語の出現頻度を析出した。

本節では、出現率が高かった語を含む回答の内容について考察する。図3は、アンケート結果（回答数41）をエクセルにまとめたデータを、ユーザーローカルが提供するサービスを用いてAIテキストマイニングしたものである。出現頻度が高い単語ほど字が大きくなっている。表9は回答の単語出

現頻度を析出した上で3回以上出現した単語をまとめたものである。

【図 3】「どんな授業があったらいいと思いますか？」への回答のテキストマイニング

図3と表9から最も出現頻度が高かったのは、Class（24回）、Japanese（14回）であることが確認できる。続いて出現頻度が高かったのはCommunication（10回）である。Communication以外にも、Conversation（4回）やSpeak（4回）など、話す技能と関わる語を見つけることができる。表10は、Communicationを含む回答をまとめたものである。

【表 9】質問 8 の回答で出現頻度が高かった単語（3 回以上）の表

名詞		動詞	
単語	出現回数	単語	出現回数
class	24	think	6
communication	10	speak	4
kanji	6	help	4
culture	6	use	3
grammar	4	形容詞	
conversation	4	japanese	14
practice	4		
course	4		
interaction	3		
student	3		
language	3		
something	3		
time	3		

【表 10】Communication を含む回答

No	「Communication」を含む回答
1	I think something slower paced for grammar and communication would be nice - or even a combined class. I found the communication classes really fun as you get to try speaking and listening, but grammar was too fast for me
2	More communication classes specially more commonly used phrases and situations
3	I think courses where communication is the main focus should be better. Especially situation based communication.
4	Communication class, extracurricular activities using Japanese, outdoor activities to explore Japanese culture and practice Japanese
5	I think courses where communication is the main focus should be better. Especially situation based communication.
6	Communication classes, pera pera classes.
7	Communication class
8	Communication class
9	Communication class
10	Communication

単純にコミュニケーションのクラスの開設を望む声(No.6,7,8,9,10)がある一方で具体的にどのようなコミュニケーションクラスを開設することを望むかについての声も確認することができる。実際の場面でのコミュニケーションを志向した授業を望む声（No.2,3,5）や教室外で活動を行い、日本語だけではなく文化も学ぶことができるコミュニケーションクラスを望む声(No.4)があり、これらの回答は教室外での日本語使用を想定したコミュニケーションクラスを志向していると考えられる。また、No.1の回答は、文法クラスの進行の速さに言及しつつ、文法とコミュニケーションの複合クラスの可能性や、「口頭表現」の授業を通してコミュニケーションができた楽しさについて言及している。

Conversationを含む回答には「More conversational, reading and talking classes to gain basics to communicate with others.」や「one-on-one conversation with Japanese students」など、日本人と基本的な会話ができるようになる、もしくは実際に会話する機会を授業に取り入れる要望について言及されている。Speakingを含む回答からは、「Maybe there should be a class that's focused more on speaking and communicating (i.e. debates, speeches or dialogues) .」など、他者との会話だけではなく、自分自身の意見や考えについてスピーチをする、討論する能力を育む授業が要望されていることが確認できる。

Communicationを含む回答をした10名中3名は2024年度前期に文法クラスのみを履修していた学習者（No.6,7,8）であった。彼ら・彼女らは口頭表

現クラスの存在を認識していない、またはクラスの内容を知らない可能性がある。一方で、7名は口頭表現クラスを履修しながら、コミュニケーションを含む回答をしていた[6]。No.1では現在の口頭表現クラスにおけるコミュニケーションクラスへの満足度について述べられているが、他の6つの回答はコミュニケーションを志向したクラスの開設を要望するものであった。現在の口頭表現のクラスにおける授業目標は「文法クラスで学んだ内容をもとに、実際の使い方を練習する」だが、Communication、Conversation、Speakingを含む回答を参考にすると、今後の初級クラスでは、話す活動について、学んだ文法の応用練習としてではなく、実社会で人と関わるための活動として再解釈し、実践していく必要があるだろう。

コミュニケーションと関係する回答についてここまで触れてきたが、Kanji（6回）やGrammar（4回）といった言語知識と関わる語の出現も確認することができる。以下の表11はKanjiとGrammarの語を含む回答をまとめたものである。

【表 11】Kanji と Grammar を含む回答

回答の分類	No	回答
Kanjiを含む回答	11	Calligraphy class for Kanji Interaction with Japanese students to learn language and culture
	12	Kanji, Calligraphy, Quizzes-games. If it is a question about time - 14:45, if difficulty for handling N4 JLPT
	13	I completed Kanji 1 & 2 but would like to study more and continue to Kanji 3 if this will be added in the future.
	14	Kanji 3
KanjiとGrammarを含む回答	15	Kanji and grammar
	16	Japanese grammar, Kanji and conversation classes
Grammarを含む回答	17	Maybe a practice class where each grammar lesson is applied in a real conversation setting rather than bookish applications.
	18	I think something slower paced for grammar and communication would be nice - or even a combined class. I found the communication classes really fun as you get to try speaking and listening, but grammar was too fast for me

Kanjiを含む回答では、書道のアクティビティを通して漢字学習をしたいという要望（No.11,12）や、漢字・語彙3の開設を望む声（No.13,14）が見られる。一般日本語コースでは現在初級レベル1、2の漢字・語彙コースを開講しているが、その上のレベルでも漢字を学ぶ必要性を感じていると考えられる。

Grammarを含む回答については、単純にGrammarのクラスの必要性に

ついて言及する回答（No.15,16）がある一方で、実際の会話の中で文法を応用練習するクラスを要望する声（No.17）も見られる。No.18は表9で示したCommunicationを含む回答No.1と同じものである。No.18では文法クラスの進度が速すぎたと感じたことや、よりゆっくりとしたペースで文法を学びたい要望について述べられている。

これら言語知識についての回答からは、一般日本語コースの初級日本語学習者が、現在開講されている漢字・語彙クラスの増設やその学習方法に書道などのアクティビティを取り入れることを望んでいることが確認できる。また、現在の初級文法クラスの授業目標は「日本語文法の基礎を学習する」とされているが、No.17、18の回答を参考にすると、今後の初級クラスでは、文法をコミュニケーションに必要な要素として位置付けた目標を再設定し、より適切なペースで学習できるシラバスの検討をしていく必要があるだろう。

以上、「日本語コースの初級クラスは、授業のバリエーションを増やす予定です。どんな授業があったらいいと思いますか？」の質問に対する回答とその傾向からは、一般日本語コースの初級日本語学習者が、自分の考えについて話し、他者とコミュニケーションを取るための技能を育む授業や、適切な進度でコミュニケーションのための文法授業が行われること、また、現状の漢字クラスに続くレベルの科目の増設[7]を希望していることがわかった。

5. 考察と今後の課題

5.1 初級コースの学習者像・課題・求められる授業についての結果と考察

5.1では、本調査の結果をもとに、「日本語学習者像」「初級コースの課題」「学習者が求めている授業」の3つの観点から、初級コースのコースデザインを見直す方向性について考察する。

まず、「日本語学習者像」では、「日本人との付き合いを広げる」ことや「日本で生活していくために必要である」を学習動機にしている学習者が多数であることと、「大学・大学院の専門の勉強」を学習動機にしている学習者が少数であることが確認できた。この結果は、英語で理系学士及び修士号を取得することができる外国人留学生の日本語学習者が存在していることと関連していると考えられる。学習者の学習動機に合わせて、「日本の生活」

「日本人との人間関係の構築」等の観点を取り入れる必要性が極めて高いと言える。一方、「日本語の知識（文法や語彙）を得たい」「日本語使用機会を増やしたい」という受講目的を持つ学習者の割合が高いことも確認された。単に日本での生活をサバイバルするためだけではなく、日本語の仕組みの理解と、実際の運用能力を育むことに対して学習者が高い意識を持っていることが示されている。

次に、「初級コースの課題」では、様々な問題が指摘されているが、コースデザインの見直しに向けて筆者らが着目したのは、「日本語を総合的に学ぶ科目がほしい」という意見である。現在の初級コースでは、「初級文法」「初級口頭表現」の2科目は、「初級文法」で習う文法項目を使って「初級口頭表現」で応用練習をするというように、進度が連動するものとしてデザインされている。また、履修条件としても、「初級口頭表現」を履修するために、同レベルの初級文法を履修しているか、過去に履修したことがあるというような条件が課されている。このようなコースデザインは、専門科目の勉強の合間を縫って日本語を学ぶ受講者（特に本コース受講者数が最も多い大学院生）にとって、日本語学習を継続するために大きな障壁となっていると想像できる。今後、科目の内容によって重点を置く能力や側面が異なっても、「日本語の知識（文法や語彙）を得たい」「日本語使用機会を増やしたい」といった受講目的を総合的に満たすように初級コース全体を設計する必要がある。

最後に、「学習者が求めている授業」という観点では、本調査を通して学習者がより実際の場面でのコミュニケーションを志向した授業の実践を望んでいることが確認できた。コミュニケーション能力の育成は今後の初級日本語コース見直しに向けて重要な視点だと考えられる。

5.2　今後のコース見直しに向けての総合的考察

5.1で述べた通り、本学の初級コース学習者は日本での生活の中で他者と関わるための日本語を学ぶ必要性を感じているという傾向が確認できた。このことから、学習者は、日本語学習を「生活の中で他者と関係構築するために運用能力を身につけていくプロセス」として捉えていると言えるだろう。こうした学習者の認識をふまえ、筆者らは、学習者が生活の中でどのような場所・状況でどのような人と出会うか、そして、出会う人とどの

ような関係を構築できるのか、「生活者」の視点から授業内容を考えコンテンツを選択していく必要があると考える。また、実際の場面でのコミュニケーションを志向する授業も望まれていることから、日本語学習を教室の中で完結させず、各自がポートフォリオの記録などを通して、実生活の中で触れる日本語について振り返り、自律的に管理することを支援していくことも重要だと考えられる。今後の初級日本語コースでは、学習者が日本語によるコミュニケーションを通して他者と良好な関係を築くための日本語学習機会を提供するとともに、生活の一部としての日本語学習を管理・計画する能力を育む工夫を模索していく必要があるだろう。

次は、今後の初級日本語コースの科目像について、本報告で得た知見を踏まえて筆者らの考えについて述べる。まず、既存の初級日本語コースに対して「問題を感じていない」学習者も一定数いることが確認されている。問題がないと感じる要因や理由は人によって異なる可能性があるものの、「初級文法」「初級口頭表現」「漢字・語彙」等の多様な授業を履修することで、日本語学習の時間が週10時間以上確保されていることがメリットとして認識されていると考えられる。今後の日本語コースにおける授業のバリエーション及び時間数に関しても、同様の基準で検討していきたい。他方、科目のバリエーションを検討する際に、総合的に学びたいという学習者の声も参照する必要があるだろう。今後の初級日本語のコースが提供する科目は、大きく分けると、日本語の知識や仕組の理解に重きを置くタイプの科目と、実際の場面でのコミュニケーションを志向するタイプの科目が検討されているが、前者の科目においては「知識や仕組みの理解」だけではなく「実際の場面の運用を想定した教材とタスク」を、後者の科目で「運用に焦点を当てた活動」だけではなく「日本語の知識や仕組みを帰納的に整理する活動や仕掛け」を取り入れ、科目群のどの授業を履修しても総合的に日本語を学びたいというニーズに対応できるコースを構築していく必要があるだろう。

筆者らは現在、初級日本語コースのスタンダーズ構築に向けた準備を進めており、その目標として、「他者を尊重し社会に参加する生活者としての日本語話者の育成」を設定する予定である。今回のアンケート調査で得た知見を取り入れ、学習者が日本社会で暮らす中で出会う様々な人たちと尊重し合い、関係構築ができる日本語能力を育めるよう初級日本語コースの

内容を見直すとともに、初級レベルの学習者も参加できる多文化交流科目の開設や、地域住民との交流イベント、学内外のコミュニティ参加等、関係構築を促す機会も提供していきたいと考える。

5.3　今後の課題

一方、本調査報告では課題も残された。本アンケートの回答は2024年度前期に初級日本語コースを受講した者に限っており、回答数は59に留まっている。初級日本語コース受講者のニーズや問題意識の傾向を明らかにするため、今後も同様のアンケートを継続的に行い、データを分析・考察していく必要がある。

参考文献

小河原義朗（2016）「多文化交流活動に必要なコミュニケーション能力を育成するための日本語スタンダーズの開発」『北海道大学国際教育研究センター紀要』20, 5-16

国際交流基金（2021）『海外の日本語教育の現状－2021年度海外日本語教育機関調査より－』国際交流基金
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey21.html（2024年9月25日閲覧）

文化庁（n.d.）「日本語教育コンテンツ共有システム　日本語教育に関する調査の共通利用項目」
https://www.nihongo-ews.mext.go.jp/information/examination（2024年9月25日閲覧）

注：

[1]『北海道大学日本語スタンダーズ 2019年度版』を参考に作成

[2] 回答者の中に「日本語研修コース」という身分の学生がいることが想定される。日本語研修コースとは、大使館推薦の国費外国人留学生と教員研修留学生向けのコースである。このコースの受講者は、「初級文法」「初級口頭表現」「漢字・語彙」のほかに、「応用日本語」「総合日本語」という日本語研修コース専用の科目を履修している。本アンケートの質問1の「その他」を選択する回答者は「日本語研修コース」の受講者であり、日本語研

究コース専用の科目名を記入していることが確認された。

[3] HUSTEPは、北海道大学が協定校の学部生に北海道大学で学ぶ機会を提供することを目的とした短期交換留学プログラムである。HUSTEPの参加者は、一般日本語コースで開講される日本語の科目のほかに、英語で提供される様々な授業(文化、社会、科学、技術、環境)を受講することが可能である。

[4] 理系大学院生54%の内訳は以下の通りである。環境科学院／地球環境科学研究院(17%)、工学院／工学研究院／工学部(15%)、理学院／理学研究院／理学部 (14%)、農学院／農学研究院／農学部 (7%)。筆者らによる問い合わせとホームページの閲覧により、これらの大学院では英語での授業履修と論文の提出による学位取得が認められていることが確認された。

[5] 初級1レベルを申請した学習者を対象に、ひらがなとカタカナを学習するためのワークブックを毎学期共有してきた。本アンケートにおける「ひらがなとカタカナの学習ツール」の要望は、更なるひらがな・カタカナ学習ツール及びアプリケーション等の共有を望む声だと考えられる。

[6] 「初級口頭表現」という科目は、授業シラバス(英文)では「Introductory Japanese Communication」という題目で掲載されているが、「文法クラスで学んだ内容をもとに、実際の使い方を練習する」ことが目標となっており、「文法項目の応用練習」の側面を有する授業である。

[7] 漢字クラスは、初級レベルの科目として開講されており、漢字の1レベルは初級文法・初級口頭表現の1、2レベルに、漢字の2レベルは初級文法・初級口頭表現の３、４レベルに対応するように進度や内容が連動している。漢字クラスの増設を実現するためには、ほかの科目との連携も検討する必要がある。

Report on a Questionnaire Survey of Students in the Elementary Course of General Japanese at Hokkaido University: Aimed at Revision of Course Design

DU, Changjiun and KONDO, Hiromu

The General Japanese Language Course at Hokkaido University offers a Japanese language program to international students (short-term exchange students, undergraduate and graduate students, etc.) and faculty members affiliated with Hokkaido University. The program offers eight levels of Japanese language classes, including four levels at the beginner level, three levels at the intermediate level, and one level at the advanced level. Hokkaido University also offers "Co-learning in Multicultural Classrooms" in which Japanese and international students discuss and learn together.

In the intermediate and advanced classes, classes are designed to cultivate the ability to communicate and collaborate with others in terms of "comprehension," "expression," and "interaction." Numerous "Co-learning in Multicultural Classrooms" are offered to intermediate and advanced level learners. In contrast, in the beginner level classes, many classes aimed at building up grammar and vocabulary, and there were no "Co-learning in Multicultural Classrooms" offered for beginner level learners until 2024. As part of the efforts to improve this situation, we conducted a questionnaire survey of learners who had taken the beginner course classes to clarify the issues in the existing beginner course and the image of the classes that learners are seeking. Based on the survey results, directions for revising the course design of the beginner course are discussed.